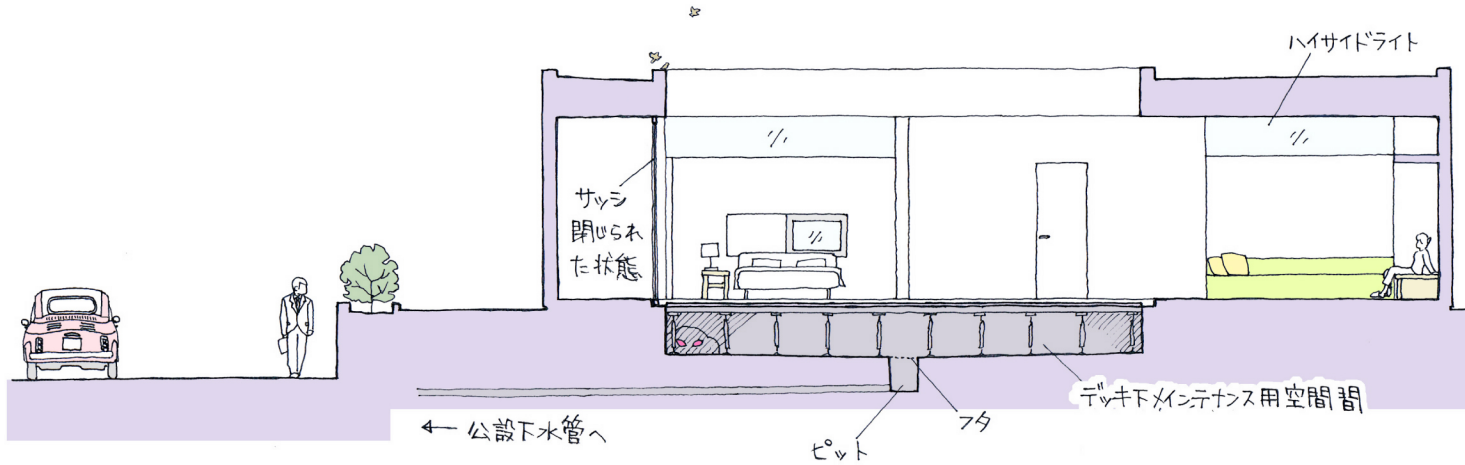


断面図

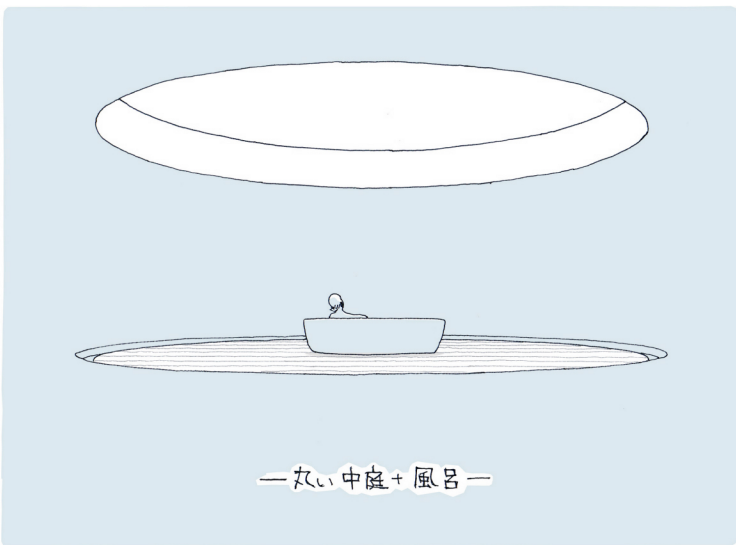
天井高さ 2.7m
中庭の直径 7m



っており、引込み扉を閉じれば、来客用の寝室として使う事も出来ます。この家は非常に一体感が強く仕切りのない構成であるため、身を隠す逃げ場に乏しい部分がちよっとあるのですが、そういった部分を補うためのスペースとしてこの場所は考えられています。

その隣には洗面所・トイレ・浴などの水廻りが集められており、この家唯一の完全に閉ざされたスペースとなっています。この家の一体感の強い構成を可能にしているのは、このような閉ざされたスペースに集約された設備や配管、構造的要素などのお陰であり、この部分だけは玉から完全に分割してしまうことで玉の主要部分をバックアップしていると言えるかも知れません。

水廻りの奥には書斎らしき机と、ついたてで仕切られた一角が目に入ります。この場所も中庭を中心にした大空間の一部であり、他の部分は空気を共有する一体化された空間なのですが、何故かここから先は少しだけ雰囲気が変わっています。その理由は、どうやら水回りのスペースの壁が少しだけ飛び出し、この先に至る道を狭くしていることにありそうです。この壁の出っ張りの中庭の円弧が最も水廻り側に張り出した点と対応しており、どうやらやんわりと、しかし意識的に通路の幅を絞っ



可能であれば是非やってみたいアイデア。浴槽を動かせるようにして、中庭のまん中へ持って行ってお風呂に入る。満月の夜に水面に月を映し入るお風呂は格別に違いない。給湯用の水栓など、設備をデッキ下に仕込んでおくのだろうか？

と、しかし意識的に通路の幅を絞っていることで、「ここから先はプライベートなスペースですよ」というメッセージを発しているようです。この先には書斎の他に主寝室とそれに付随するウォークインクローゼットがある筈なのですが、その様子については想像するだけに留めておきましょう。

エピローグ

如何でしょうか。非常にシンプルかつ中庭の円形が力強いこの住宅ですが、計画自体は現在クライアント

トがお住まいの立派な家を壊してより小さな家に建て替えるというや無理のあるものであり（予算と敷地面積から言って、平屋の中庭式だとしてもそういうことになってしまっ）、ご親族の反対もあって結局実現には至りませんでした。非常にユニークな設計条件と、だからこそ得られるシンプルな解答を私自身とても気に入っていたのですが、こればかりはどうしようもありません。いつか似た設計条件が与えられる日があれば、是非実現をさせてみたいプロジェクトの一つです。